

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

・ケアプラザの役割をより多くの人に知ってもらい、子どもから高齢者まで利用しやすい身近な地域の活動拠点となるよう取り組んでいきます。  
 ・高齢化率も高くなっているため、高齢者が活躍できる場や認知症の方にも安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。

新規  
継続

— 具体的な取組内容 —

■ 昨年に引き続き、認知症の方にも優しいまちづくりを目指し、多角的視点から課題抽出していきます。  
 (Nカフェ「認知症カフェ」の再開支援、支えあい勉強会、地域ケア会議、認知症サポーター養成講座の開催。キャラバンメイトエリア勉強会の充実)

■ 顔の見える関係づくりを大切に、相談機能等も含めたケアプラザの広報活動に努めます。また、利用しやすい施設を目指し、環境の整備等も行います。  
 (広報紙の発行、地域での清掃活動への参加、出前講座等で相談機能の啓発)

■ 地域資源の情報集約と情報提供を行っていきます。  
 (地域資源情報の更新・活用、地域活動一覧表の更新)

■ にしろう健康づくり検討会の支援と介護予防の充実を目指します。  
 (にしろう健康づくり検討会の周知、社会参加への情報発信、新たな活動の創出 等)

■ 子どもから高齢者まで一人ひとりの活躍できる場をつくっていきます。  
 (ちょこっとボランティア、多世代交流、ケアプラザで発表出来る場の提供 など)

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

○コロナ禍においても、「認知症の人にも優しいまちづくり」を目指し、地域ケア会議の活用や正しい認知症への理解に向けキャラバンメイトさんと啓発チラシの作成をしました。来年度も継続して「認知症の人にも優しいまちづくり」を目指し活動を継続していきます。  
 ○顔の見える関係を大切に、地域に出向き公園でのラジオ体操講座などを実施しました。コロナ禍でも可能な限り地域で受け入れてもらえる講座の開催をし、ケアプラザの周知や活用しやすい施設を目指していきます。  
 ○現在活動している団体、休止している団体についても活動場所や担い手の方を訪問し、状況の把握を行い、情報の更新をしています。また、お問い合わせもあり、文科系、運動系とニーズに合わせてご紹介をしています。  
 ○毎月広報紙を発行しました。9月より第五地区町内会に回覧を開始しました。地域の公園清掃には多職種で参加し顔の見える関係を図りました。  
 ○宮ヶ谷小の子ども達がすくろく制作を通してプラザご利用の高齢者と交流しました。交流方法は、コロナ禍によりzoomを活用しました。ケアマネ担当の高齢者の方々が折り紙をプラザに提供。その折り紙を模造紙大の作品に活用して、郵便局やプラザに掲示しました。

区からのコメント

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止等に留意しながらの地域ケアプラザ運営にご尽力いただき、ありがとうございます。計画的な事業執行が難しい中、第五地区も含めた広報誌の発行、地域特性を活かした公園でのラジオ体操の実施や公園清掃への参加など、地域ケアプラザ業務の周知等に努め、顔の見える関係づくりに前向きに取り組んでいます。次年度以降は、従来実施していた小学生や多世代交流の取組など、開催方法や内容を検討しながら事業が展開されることを期待しています。  
 また、「認知症サポーター養成講座」や「地域ケア会議」などを通じて、高齢者支援、認知症の方やその家族が自分らしく安心して暮らせる地域づくりが一層の充実していくことを期待しています。  
 さらに、地域の身近な場での介護予防やサロンなど、見守り・つながりに向けた活動などの創出に向けて、地域住民との協働による地域づくりが推進していくことを期待しています。